

コーパス解析, 作例, 実験・調査を  
組み合わせた実証的言語研究法  
日英語の清掃動詞構文の分析を通じて



大谷 直輝 × 黒田 航 × 中本 敬子  
京都大学(院) × NICT × 文教大学  
第26回英語学会ワークショップ  
2008/11/15, 筑波大学

# 本WSの趣旨の説明 1/3

- 目標とするもの
  - コーパス調査, 作例, 心理実験・調査を連携させた実証的な言語研究の実践例の紹介
- (あまり) 目標としないもの
  - 現象の説明

# 本WSの趣旨の説明 2/3

- コーパス事例の(統計)解析，作例，心理実験・調査の研究法を組合わせて，おのおのが単独で行なわれた場合には得られるとは限らない，反証可能性を持った言語分析を提示する
- 特別な事前知識がなくとも修得できるデータ処理法，解析法を紹介し，(言語学では今だに主流になっていない) 実証的研究の活性化を促す

# 発表の概要 1/2

1. コーパス調査に基づいた英語の清掃動詞 (*sweep, wipe, mop, brush*) と不変化詞 (e.g., *away, off, up, down*) の共起特性の研究 (大谷)
2. 日本語で1に対応する現象のコーパス解析と作例による補完の紹介 (黒田)
  - Word Sketch Engine (Kilgarriff & Tugwell 04) の使用法解説
3. 日本語の清掃動詞 (片付ける, 整理する) を対象にした一対比較法による相対的な計量化の紹介 (中本)
  - 正例同士の容認度の差の記述 (と正例と負例の境界の特定法の確立) に貢献

# 発表の概要 2/2

- 対象言語の違い，手法の違いこそあれ，全員の研究が，清掃動詞のメタファー用法と非メタファー用法の関係の説明に必要な記述的データ (i.e., 記述的一般化や行動データ) を与えることを目標にしている
- 現象の説明はそれが整ってから

# 用語に関する注意

- 清掃動詞  $V$  (e.g., “洗う”) の目的語名詞  $X$  が <Th(ing to be removed)>か **Th** の付着する <Loc(ation)> かが問題
  - (1) (<Loc: 服>の) <Th: 汚れ>を洗う
  - (2) <Loc: 服>を洗う [cf. \*<Loc: 服>から <Th: 汚れ>を洗う]
  - (3) a. (服 {の; から}) <汚れ>を洗い落とす; b. \*<服>を洗い落とす
  - (4) a. (服 {の; から}) <汚れ>を落とす; b. #<服>を落とす
- 注意: **Th** は Theme と一致することもある (e.g., (1), (3a), (4a)) が, 常にというわけではない (詳しくは大谷の発表で)

# お詫び

- 2の黒田の発表は、発表者の都合でキャンセルになった「日本語清掃表現の定量的分析」(李在鎬)の代打
- このため、2が本格的な定量調査になっていない点は予告と違っていています。お詫び申し上げます